

靖國神社能舞台脇の標本木

梅には、清香芳潤、そして凛々しさがあ  
り、桜には清純華麗、  
そして潔さがある。  
いずれも大和心の象  
徴とされるゆえんで  
ある。大方ご存じの  
とおり、東京の桜の  
開花宣言は、靖國神  
社の境内にある3本  
の標本木（基準木・  
ソメイヨシノザクラ）

に、それぞれ数輪の花が咲くのを観察  
して、気象庁の係官により発表される。  
その1本が由緒ある能舞台の脇にある。  
樹齢六、七十年と見受けられるが、ソ  
メイヨシノザクラは、園芸用栽培種で、  
ヤマザクラとサトザクラの交配種であ  
り、樹命が比較的短いから、かなりの  
老木であろうか。筆者も幾度かこの能  
舞台に上がって謡曲・仕舞を奉納した  
ことがあるが、平成11年の春、例大祭  
に先立って催された奉納謡曲大会に参  
加させていただき、仕舞「桜川」を演  
じた時、舞台脇の桜の木から散り残つ  
た花びらが、風に舞いながらはらはら  
と舞台に散りかかり、えも言われぬ感  
慨に浸りながら舞い納めることができ、  
終わって、靖國神社の当時の湯浅宮司  
さんから感謝状を贈られ、正しく英霊  
の御加護と、感激を新たにされた経験が  
ある。

大分横道にそれたが、靖國神社の境  
内には、約800本の桜の木が植えら  
れている。早咲きの緋寒桜（奄美原産・  
天然記念物）、大島桜、四季桜（冬桜  
の一種）、黄桜（ウコン桜）、八重桜  
（里桜）、山桜なども少数本ずつ見受け  
られるが、大部分はソメイヨシノザク  
ラ（染井吉野桜）である。  
靖國神社の桜には特別の想いと魂が  
込められている。招魂社時代の明治3  
年以來、戦友や遺族や崇敬者らの手に  
よって植え継がれ、育て継がれてきた  
のである。靖國神社の象徴は春の桜と  
秋の菊である。その御紋章も桜と菊で  
形作られている。  
桜は日本人の心情の花であり、纏綿  
と想いを懸けてきた伝承の花であるが、  
古くから御神木として崇められてきた。  
「古事記」の木花之佐久夜毘賣の御神  
木とされたり、吉野山では、修験道の  
祖・役小角が、金峯山での千日行満願

靖國神社の桜は、千鳥ヶ淵の桜と共  
に東京の顔である。その東京の桜の開  
花宣言は、今年暖冬のせいもあつてか  
なり早まるのではないかとこの大方の予  
想に反し、昨年よりやや遅い3月23日

頃の見込みである。桜の朝寝坊など  
という声も聞かれた。桜の開花は、梅の  
それとは違い、寒暖の差が必要である。  
暖かい日が続いた後に寒風の襲来、そ  
してまた温暖といった三寒四温が繰り返  
された後に一斉に開花するのである。  
それに反して梅は、風雪に耐え、寒さ  
に堪えて、時節至れば雪の中でも開花  
する。春告げ花、雪中花とも言われる。

梅には、清香芳潤、そして凛々しさがあ  
り、桜には清純華麗、そして潔さがある。  
いずれも大和心の象  
徴とされるゆえんで  
ある。大方ご存じの  
とおり、東京の桜の  
開花宣言は、靖國神  
社の境内にある3本  
の標本木（基準木・  
ソメイヨシノザクラ）

### 靖國神社の桜

英霊の依代よりしろ



題字揮毫・瀬島龍三氏

## 第5号

財団法人 大東亜戦争全戦没者  
慰霊団体協議会

〒105-0001 港区虎ノ門3-6-8  
第6森ビル5階

電話 03 (5405) 1838  
FAX 03 (5405) 1839

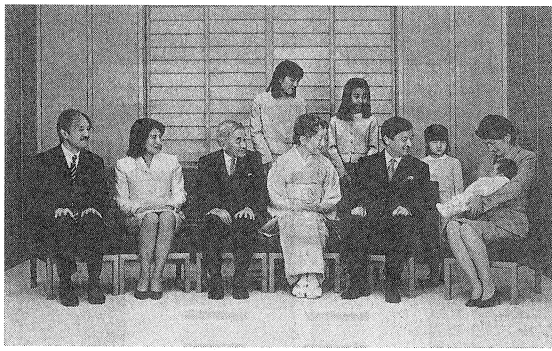
<http://homepage2.nifty.com/ireikyuu>

振替口座 00140-6-334930

編集人 飯田正能  
発行人 小田原健児  
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

## 目次

靖國神社の桜	1
皇室関係	2
硫黄島の激戦を偲んで和歌五首	4
海原会・第39回予科練戦没者慰霊祭	6
フィリピン慰霊巡拝旅行	7
シベリア鎮魂慰霊の現状と 次世代への期待	12
協議会参加団体の紹介	16
奉祝「建国記念の日」	18
事務局からの報告等	19



皇居・御所の応接室におそりの天皇ご一家 (宮内庁提供)

を自ら桜の木に刻み、堂を建立して祀つたと伝えられるところから蔵王権現の御神木とされ、山岳信仰の象徴となっている。農耕の面においても、古代の人々にとって磐や樹木は神の依代であり、殊に桜は、その開花が農耕生活の一年の豊凶を啓示する神聖な花木であったと考えられる。サは早苗、早乙女など神聖な音であり、クラは神霊の依代、また、さくら、さかすき、さかな、さ

らなどすべてさの字の付くものは神々との関わりを持つと考えられる。日本人が花見時になると桜の花の下で杯を交わしたくなるのは、古代からのそうした神事の名残が心の深層にあるからかもしれない。また、仏教の伝来と共に、爛漫と咲く春の桜の景は現世の浄土、観音浄土の莊嚴ととらえられるようになったのであろうか。

今年も4月7日(土)、靖國神社の参道・大村益次郎銅像前で「靖國神社の桜の花の下で『同期の桜』を歌う会」が開催される。第23回目である。『同期の桜』の原曲は、西条八十が少女俱樂部に発表した叙情詩「二輪の桜」を原作とし、海軍軍楽隊出身で、名曲

「麦と兵隊」を書いた大村能章の作曲により、昭和14年にキングレコードが発表した、樋口静雄の歌う「戦友の唄」で、「君と僕とは二輪の桜」という演歌調の歌謡曲であったものを、昭和17年に、当時海軍兵学校の1号生徒であった海兵71期の帖佐裕(海軍大尉)が「貴様と俺とは同期の桜」などと歌詞を置き換えて海軍で歌われるようになってから、歌がガラリと変貌して今のような武張った歌になったということであり、戦時中は、多くの特攻隊員を送る別れの宴などで歌い継がれてきたのである。桜の花の下でこの歌を歌うと思わず感涙に咽ぶのである。「・・・離れ離れに散ろうとも 花の都の靖國神社 春の梢に咲いて会おう」と誓い合い、身を擲って祖国の危急を救い、家族を守らんとした英霊の魂はここに宿るのである。

(飯田 正能記)

## ○新年を迎えるに当たっての天皇陛下のお言葉

天皇陛下は、新年を迎えるに当たってのご感想を発表された。陛下は、冒頭、「昨年も、大雪や豪雨、台風、竜巻などの自然災害で、150人も人命が失われたことは痛ましいことでした」と振り返り、「新潟県や福岡県では、地震被害のため、この冬も仮設住宅で暮らしている人々のことが心にかかっています」「台風による潮風害で稲作などに大きな被害を受けた地域もあり、農家の人々の心痛が察せられます」と気遣われた。その上で陛下は、「我が国と世界の人々の幸せを祈り、

皆が、互いに信頼し合って暮らせる社会を目指し、力を合わせていくよう、心から願っています」と強調された。天皇・皇后両陛下は、昨年6月、シンガポール、タイ、マレーシアの東南アジア3か国を公式訪問されたが、今年も5月にスウェーデン、バルト3国(エストニア、ラトビア、リトアニア)、英国の欧州5か国を公式訪問されるほか、6月には全国植樹祭で北海道、11月には全国豊かな海づくり大会で滋賀県へのご訪問などが予定されている。

昨年を大きく上回る6万8830人に及んだ。天皇・皇后両陛下は、皇族方とともに午前10時10分、11時、11時50分、午後0時40分、1時30分、2時20分、3時20分頃の計7回、皇居・宮殿のベランダにお立ちになり、訪れた参賀者に対し、天皇陛下から親しく「国民の幸せと世界の平和を祈る」旨のお言葉を賜った。参賀者は、日の丸の小旗を打ち振り、天皇陛下万歳でお応えした。

### 両陛下が昨年に詠まれた御歌

(年頭宮内庁発表)

天皇陛下御製

(大雪)

新年・一般参賀に6万8830人

1月2日、新年一般参賀が皇居で行われた。昨年9月の秋篠宮悠仁親王殿下ご誕生の慶事もあつてか、参賀者は

年老いし人あまた住む山里に  
雪下ろしの事故多きを憂ふ

(平成17年の暮れから18年初頭にかけて豪雪が続き、北海道・東北地方を中心に高齢者による除雪中の事故などが数多く発生した。)

〈三宅島〉

ガス噴出未だ続くもこの島に  
戻りし人ら喜び語る

(平成12年の噴火により全島避難した三宅島島民は、4年半を経た17年2月、島内復帰を開始した。それから1年を経過した18年3月、両陛下は三宅島の現状をご視察された。)

〈典〉

六十年を国人のため尽くされし  
君の祝ひに我ら集へり

(平成18年6月、両陛下は、タイ王国王陛下御即位六十年記念式典に、各国の国王及び王室の方々などと一緒に招かれてバンコクでの式典にご参列になられた。)

〈孫誕生〉

我がうまご生れしを祝ふ日高路の  
人々の声うれしくも聞く

(平成18年9月6日、両陛下は、国際顕微鏡学会会議にご臨席のためご滞在中の札幌で、皇孫殿下ご誕生の報をお受けになった。翌日より丸二

日をかけて襟裳岬をご訪問になったが、その途次、日高路の沿道やご訪問先で大勢の祝福をお受けになられた。)

〈襟裳岬〉

吹きすさぶ海風に耐えし黒松を  
永年かけて人ら育てぬ

(両陛下には、襟裳岬の緑化事業について、平成5年の朝日森林文化賞受賞者とのお話を契機に、ご関心を寄せてこられたが、18年9月、北海道行幸啓の機会にこの地をご訪問になり、緑化事業従事者からその労苦をお聞きになっておられる。)

〈第57回全国植樹祭(岐阜県)について〉

種々の木々生ふる森になさむとぞ  
四美に集ひて苗木植えける

○第61回国民体育大会(兵庫県)に  
いて  
大いなる地震ゆりしより十年余り  
立ち直りし町に国体開く

○第26回全国豊かな海づくり大会

(佐賀県)について  
眼前に有明海は広がりにて  
今年生まれしむつごろう放つ

皇后陛下御歌

〈初場所〉

この年の事無く明けて大君の  
相撲の席に在せるうれしさ

(両陛下は、平成18年1月、お揃いで大相撲をご覧になられた。御歌はこの年が平穩に明け、陛下が恒例の初場所にお出ましになったことの安堵と喜びをお詠みになられたもの。ちなみに在ベル1日本大使公邸で人質事件のあった翌年の平成9年、及び天皇陛下がご手術のため入院された平成15年には、両陛下のお出ましはなかった。)

〈月の夜〉

初にして身ごもることき面輪にて  
胎動を云ふ月の窓辺に

(平成18年2月、秋篠宮妃殿下のご懐妊が発表された。この御歌は、第三子とはいえ久々のご懐妊であったため、あたかも初めてのお子様であるかのような少し緊張したご表情で、妃殿下が皇后様に胎動を告げられるご様子をお詠みになられたものである。)

〈帰還〉

サマワより帰り来まさむふるさとは  
ゆうべ雨間にカナカナの鳴く

(サマワの自衛隊員に、両陛下は、長い間御心を寄せておられた。この御歌は、隊員の帰国が決まり、ほっとされたお気持ち、雨間に鳴くヒグラシの声に託してお詠みになられたもの。)(以上、宮内庁ホームページより)

○「月」をお題に「歌会始の儀」

新春恒例の「歌会始の儀」が1月15日午前、皇居・宮殿「松の間」で行われた。今年のお題は「月」。

天皇、皇后両陛下と皇族方に加え、2万3737首の応募作から選ばれた入選者10人、選者、天皇陛下に招かれた召人で元住宅金融公庫総裁の大津留温さん(85)の歌が、古式に則った発声と節回しで朗読された。この日は、両陛下と皇太子殿下を始め皇族方が出席され、入選者も全員出席した。

天皇陛下は、宮殿での認証官任命式を終えて御所へ歩いて戻られる際の情景を、皇后陛下は、元日の早朝に宮中祭祀に向かわれる天皇陛下を見送った後に空を見上げ、年ごとに変わる月の満ち欠けを観察されるという長年の習慣を、それぞれ詠まれた。

ご静養中の雅子妃殿下は欠席されたが、「おつき様が見たい」とせがまれる愛子様の手を取り、東宮御所の庭で一緒に月をご覧になった際の情景を詠まれた。

入選者の最年長の岡山県倉敷市、農業高原康子さん(75)は普段の花作りへの思いを、最年少の大阪市、高校1年吉田敬太君(16)は東京に住む兄と

サッカーボールを蹴り合った思い出を  
それぞれ表現した。

○「歌会始の儀」の歌

天皇陛下

務め終へ歩み速めて帰るみち

月の光は白く照らせり

皇后陛下

年ごとに月の在りどを確かむる

歳旦祭に君を送りて

皇太子殿下

降りそそぐ月の光に照らされて

雪の原野の木むら浮かびく

皇太子妃雅子殿下

月見たしといふ幼な子の手をとりて

出でたる庭に月あかくさす

秋篠宮殿下

モンゴルを走る列車の車窓より

見えし満月大地照らせり

同妃紀子殿下

月てらす夜半の病舎にいとけなき

子の命を人らまもれり

常陸宮殿下

望月の光あまねき草生より

かねたたきの声しづかに聞こゆ

同妃華子殿下

をとめらは夏の祭りのゆかた着て

月あかりする山の路ゆく

三笠宮妃百合子殿下

ならび立つ樹水を青く照らしつつ

蔵王の山に月のぼりたり

三笠宮寛仁親王妃信子殿下  
澄みわたる月の光をあふぎみて  
今の世思ひ次の世を思ふ

高円宮妃久子殿下

知床の月のひかりに照らされて

梢にとまるしまふくろふ見ゆ

◇

召人 大津留温氏

天の原かがやき渡るこの月を

異境にひとり君見つらむか

選者 安永露子さん

湖に浮きていさよふ円月を

遠く見てゆく冬ふかきかな

選者 岡野弘彦氏

望月は海原たかくまかがやき

伊豆の七つの島さやかに

選者 岡井 隆氏

月はしづかに天心に浮き

足早に歩くわれらを見守らむとす

選者 篠 弘氏

路上なる古本祭りつづきいて

夕空は朱の月をかかげつ

選者 永田和宏氏

夕月を肩に押し上げ静かなる

雪の比叙を見つつ帰らな

◇

入選者 (年齢順)

岡山県 高原康子さん (75)

有明の月照る畑に繰出して

出荷のアスター千本を切る

愛知県 奥村道子さん (75)  
黒板に大き三日月吊されて  
園児らはいまし昼寝のさなか

徳島県 金川充子 (73)

台風に倒れし稲架を組みなほし

稲束を掛くつきのあかりに

秋田県 田村伊智子さん (70)

月光をたよりて屋根の雪をきる

音かすかして子の丈みえず

広島県 杉田加代子さん (55)

夕張の月のかたぶくこひほひに

携帯メールはひそやかに来ぬ

北海道 藤林正則氏 (52)

サハリンを望む丘のうへ

放牧の牛千頭を照らす満月

秋田県 山中律雄氏 (48)

映像に見し月山の朝のあめ

昼すぎてわが町に移り来

東京都 藤田博子さん

月の庭蒼き梢に目守られて

昨日となる今日今日となる明日

東京都 一杉定恵さん (33)

実験のうまくゆかぬ日五カ月の

胎児動きてわれを励ます

大阪府 吉田敬太氏 (16)

帰省した兄とボールを蹴りに行く

土手一面に月見草咲く

◇

来年のお題は「火」。

硫黄島の激戦を偲んで短歌五首

栗林忠道

国の為重きつとめを果し得て

矢弾尽き果て散るぞ悲しき

仇討たで野辺には朽ちじ吾は又

七度生れて矛を執らむぞ

醜草の島に蔓るその時の

皇国の行手一途に思ふ

昭和20年2月19日から3月下旬までの硫黄島攻防戦は熾烈を極めた。

栗林中将(戦死後大将)は現地最高指揮官として2万1千人の陸海将兵を指揮し、水無き火山島に全長18キロメートルに及ぶ地下壕を建設し、その地熱に耐えながら長期持久戦を敢行、米軍攻撃軍約6万余に多大な損害(米軍死傷者約2万9千名)を与えた名將として歴史にその名を残し、3月26日に戦死した。

遺詠は、3月16日16時過ぎ大本営に宛てた「戦局、最後ノ関頭ニ直面セリ・・・今や弾丸尽キ水涸レ、全員反撃シ最後ノ敢闘ヲ行ハントス・・・」という最後の電文の末尾に付された辞世の歌で、本土防衛の要地確保という「重きつとめ」をついに果たせず、弾

も水も尽き果て、「最後の敢闘」を行うに当たり、祖国の安危を案じつつ詠んだものである。

栗林中将率いる硫黄島守備隊は、その後も頑強に抗戦を続け、米軍に多大の損害を加えつつ、総攻撃の機を窺っていた。栗林中将は、「予ハ常ニ諸子ノ先頭ニ在リ」と宣言したとおり、残存する陸海軍将兵約400名の先頭に立ち、出撃の好機をとらえて3月26日午前5時過ぎ、米軍野営地を急襲し、約3時間に及ぶ近接戦闘の末、米軍に死傷者約170名の損害を与えて玉砕した。

なお、栗林中将以下守備隊の将兵が硫黄島から家族や友人たちに宛てた手紙が残されていたが、それらを読んで中将の人柄や将兵たちの祖国愛や家族愛の心情に感動したアメリカの映画監督クリントン・イーストウッドや日系二世の脚本家アイリス・ヤマシタらによつて作成され、渡辺謙ら出演のアメリカ映画「硫黄島からの手紙」は、日米双方で上映され、多くの人々の感動を呼び、映画界最大のイベントである第79回アカデミー賞の、作品賞他5部門にノミネートされたが、惜しくも音響編集賞1部門の受賞にとどまった。しかし、この映画の反響は大きく、日米のみならず、広く世界の人々に感動

を与え、語り継がれていくことである。



平成6年(1994年)2月、同島に慰霊のため行幸・啓された天皇陛下と皇后陛下は次のような御歌をお詠みになっておられる。

天皇陛下

精魂を込め戦ひし人未だ

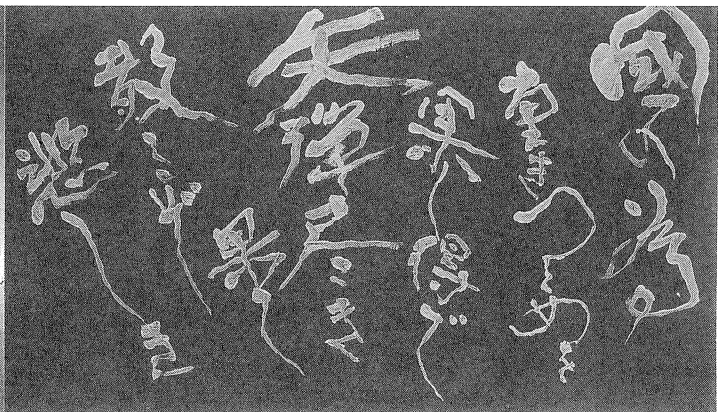
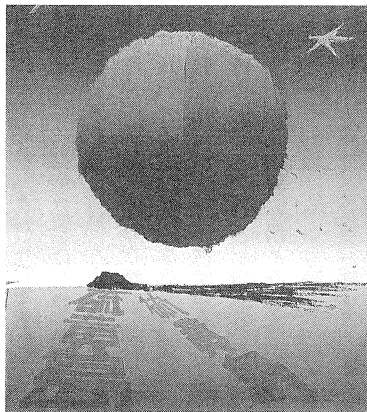
地下に眠りて島は悲しき

皇后陛下

慰霊地は今安らかに水をたたふ

如何ばかり君ら水を欲りけむ

○下段の書画は、鈴木利男氏(海軍飛行機整備予備学生・海軍少尉)作「今甦る若者決死の声」展より



硫黄島栗林兵団長より  
大本営宛、最後の電報  
陸軍大将 栗林忠道命  
昭和二十年三月十七日  
硫黄島にて玉砕  
長野県埴科郡西條村出身

陸軍軍曹 蜂谷博史命  
昭和十九年十二月二十四日  
硫黄島にて戦死  
岡山県船頭町出身 二十三才

## 財団法人海原会 第39回予科練戦没者 慰霊祭

小倉 利之

平成18年10月22日、靖國神社において、財団法人海原会(会長桜井房一)主催による第39回予科練戦没者慰霊祭が執り行われた。ご遺族、来賓と1期生から24期生まで、500名を超える参列者が参集殿に集い、13時から拝殿において慰霊式典が開始された。

国歌斉唱、修祓、献饌、神官祝詞奏上、桜井会長の祭文奏上に続き、「海行かば」を斉唱して式典を終え、3梯団に分かれて奥の本殿に進み、昇殿参拝をした。

桜井会長は、祭文の中で、先ず祖国愛、家族愛、コミュニティへの帰属意識に燃えて、赤道直下に、あるいは凍てつく極北の空や海に、花も蕾のそれぞれの人生を惜し気もなく、桜花の如く潔く散華させた、戦没予科練の追悼行事を永久に継続することを誓約された。このことは、口癖のように交わした戦場における「いずれ靖國の森で再会しよう!」と誓い合った約束の履行である。そして、戦没予科練の意志を



受付風景

生存予科練生が生ある限り継承して、「青少年の育成」に全力投球することが必要であり、「海原会」は今後、後継者の発掘に努め、永久に存続させていく決意であると述べられた。

「海原会」の慰霊祭は、これまで、土浦の陸自武器学校内にある慰霊碑の前で実施されてきているが、今年に限り、靖國神社で開催された。これは、戦没された英霊たちが、特攻に出撃する時や、戦友との会話の中で、「今度会う時は靖國神社で」と交わした言葉を尊重することと、今日まで生存され

ている同窓の方々からの希望により、戦友との約束であった、靖國神社での慰霊祭を是非行いたいとの意向を受けて、今年に限り、靖國神社で執り行われたものである。

次いで、直会は、場所を霞ヶ関ビル内に移動し、整々と行われたが、お互い楽しい思い出となったように見受けられた。

会長の謝辞、名誉会長による挨拶、献杯、乾杯が行われた。挨拶は、山本五十六元帥のご長男山本義正氏による感慨深い元帥の思い出話があった。また、都議会議員から、前特別顧問安倍晋三首相からのお言葉が伝

えられた。台湾から参加した歌手の歌や会員の軍歌演習などがあって、17時30分に終了した。

予科練戦没者が、国家安泰のため、家族のために、純粋な気持ちで戦った事実を、後世に正確に伝えていくことが必要である。慰霊祭を実施するのみでなく、若者に対して、これからの日本をよろしく願うことの心構えと戦没者及び我々生存会員の志を継承するための啓蒙活動が必要な時期に来ていることを痛切に感じさせられた。

当財団法人においても、若い世代への勧誘・入会促進が必要である。



直会会・桜井会長謝辞



山本五十六元帥長男山本義正氏挨拶

# フィリピン慰霊巡拝 旅行

(財) 特攻隊戦没者慰霊平和祈  
念協会主催

(財) 特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会(特攻協会と略称)では、平成17年度に引き続き平成18年度も、同一日程で公募によるフィリピン慰霊巡拝旅行を催行した。この旅行は、A・B2班に分けて企画編成されたが、10月24日から27日までの前半、すなわち24日の

成田発マニラ着、在比日本大使館表敬訪問、25日のクラーク・リリーヒルでの慰霊祭、東西両マバラカット飛行場跡での慰霊祭、大西神社参拝、神風特攻隊慰霊顕彰の現地功労者ダニエル・ディゾン氏宅表敬訪問他、26日のコレヒドール島巡拝、洋上慰霊祭、マニラ市内、大聖堂他視察等、27日のモンテソルパ参拝後マニラ空港までは両班合同で行動し、A班は帰国。その後B班は、セブ島慰霊巡拝、28日のレイテ島慰霊巡拝(オルモック・リモン・ダガミ・ブラウエン・ドラグ・タクロバン)等を終え、29日マニラ空港発帰国した。

ラカット基地から発進したことに因み、この地の慰霊碑前において、毎年10月25日のこの日、しかも発進時刻の7時25分に合わせて執り行われる、マバラカット、クラーク両市主催による慰霊祭に参加することを主目的にしているものであつて、現地の人々によつて建立され、現地の公の行事として慰霊祭が執行されることに感謝の意を表する。そのためにも、できるだけ多くの日本人の参加を呼び掛けて公募した結果、17年度は27名、18年度は25名の参加者があつた。

クラーク特別経済区、リリー・ヒルと称する平和公園内の平和観音立像前での慰霊祭には、フィリピン側から市や軍の代表者、比空軍軍楽隊と地元高校生らのブラスバンド、地元住民、多くの小学校児童らが、日本からは協会会員らのほか、この平和観音立像を寄進し、平成14年に開眼法要を執行した

鹿兒島市の最福寺住職池口恵観師ほかの僧侶一行、医療法人徳州会等約60名が参加したが、日本からの参加者一行は、日の丸と比国国旗の小旗を打ち振つて歓迎する小学生らに迎えられて式場に着いた。

式は、午前7時5分、軍楽隊の演奏による比日両国歌斉唱に始まり、花輪を観音像に捧げ、マバラカット、ク

ラーク両市長の挨拶、日本側代表菅原道熙団長(協会理事長)の挨拶があり、午前7時25分、関大尉らが東マバラカット飛行場を発進した時刻に合わせて、地元高校生らのブラスバンドにより「海行かば」が演奏され、一行は感涙に咽びつつ斉唱した。

次いで、西と東のマバラカット飛行場跡の慰霊碑前での慰霊祭が執行されたが、東マバラカット飛行場跡には、現地の画家ダニエル・H・ディゾン氏が私財を投じ有志を募つて昭和49年に建立した慰霊碑が、平成3年、ピナツボ火山の大噴火による火山灰で3メートル下に埋没してしまつたため、その後マバラカット市のヒルベロ観光局長などの尽力と日本側関係者の協力により、神風特攻神社として再建され、コ

ンクリート製横長の太鳥居が建ち、その正面奥に立派なブロンズ製の特攻勇士の像が安置されており、その除幕式が平成16年10月25日に挙行されて以来マバラカット市主催の慰霊祭が毎年執行されているとのことであり、今回も慰霊碑・特攻勇士之像前で慰霊祭が執行され、一行は、般若心経と特攻平和観音経を唱和しつつ焼香供養した。

は、特攻協会の会報「特攻」66号別冊及び70号に掲載されており、引き続き、71号にも掲載される予定とのことであるが、参考までに、平成18年度(70号掲載)と平成17年度(66号別冊掲載)の菅原道熙団長(特攻協会理事長)の報告書を次に転載させていただいた。

●現地の「日刊・まにら新聞」は、10月26日(木)付けで、「戦没者慰霊祭開かれる 特攻隊初出撃から62年」と題し、次の「観音像前で比日の国旗を振る児童ら」との写真入りで大きく報道した。



# 比島慰霊旅行報告

菅原 道熙

今年も昨年と全く同一の期日・行程で比島慰霊旅行を実施いたしました。

昨年とほとんど変わらない25名の参加者があり、大半は高齢者でありましたが、全員恙なく帰国出来ましたことは、誠に嬉しく英霊の御加護の賜と、心から感謝申し上げます。

慰霊旅行の主眼である東マバラカト飛行場跡の神風特攻隊の碑については、本紙66号別冊の冒頭に詳述してありますので、改めて纏いて頂きたくお願い申し上げます。

今回の旅行で昨年と異なった2点について御報告いたします。一つは、杉山蕃理事(元統幕議長・空幕長、防大4期)が副団長として参加されました。山崎隆一郎在比特命全権大使は、以前杉山理事が統幕議長時代に、外務省から防衛庁に出向しておられた関係もあって、大使を表敬訪問することになりました。

駐在武官の安永幸生一等空佐が空港に出迎えて下さり、マニラ市内の高級住宅街に在る大使公邸に直行。15時頃に到着しました。大使自らのお迎えに恐縮しつつ広間に着席。昨年行われ

た、日比国交修復50年記念式典のビデオで、フィリピン共和国の現状について詳しいお話を承り、次いで、安永一佐から比国軍の現況を同じくビデオで説明して頂きました。

その間に、茶菓のおもてなしを受け、一同早朝からの疲れを癒すことが出来ました。杉山副団長が持参された零戦のプラモデルを贈呈して、広間前庭で全員の記念撮影の後、公邸を後にして一路当日の宿泊地クラークへ向かいました。

次は、板津忠正氏(会員、初代知覧特攻平和会館館長)が、一応整備された現地を再訪したいと参加され、その際、氏を中心人物とした写真集『特攻花』を最近上梓した、七彩工房代表の中矢伸志氏、担当したカメラウーマンの仲田千穂さんと新人の杉村麻衣さんが、板津氏の薦めで参加されました。全く予期しなかったことで、大変驚き、かつ、嬉しく思った次第であります。

100%現地の人の努力で碑が建てられ、その上、毎年10月25日に慰霊祭が催行されている事に対しては、我々日本人は心からの謝意を表さなければなりません。しかしながら、この事が未だ広く我が国に周知されていないことは極めて遺憾なことであり、参加された2人の女性カメラマンは、

若い眼でどの様に感じ取られたのか、19歳で『特攻花』を知って喜界島に通い続けた仲田さん、杉村さんが加わって、マバラカトを世に問うことに繋がることを期待する次第であります。

平成12年以來、南九州・比島・沖縄・台湾・宮古島・石垣島、更に比島と続けられて来た、特攻発進基地慰霊巡拝旅行は、今回をもって終わります。

若い会員が増えた暁には、再びこの様な慰霊旅行が企画されることを、念じて止まない次第であります。



山崎大使表敬訪問記念写真・中央が山崎大使



リリーヒル観音像前で、中央菅原団長の右マリノ・P・モラレスマバラカト市長



東マバラカト飛行場跡慰霊碑前で出迎えた地元小学生の一行

### 注

『特攻花』制作 憫七彩工房  
取材・デザイン 仲田千穂

発行者 中矢伸志

発売元 憫七彩工房

〒542-082 大阪市中央区島之内

一―一六―一五

Tel 〇六―一六―二五―一〇七三二

FAX 〇六―一六―二五―二一六五六

メール: 731@nanasei.jp

ホームページ: <http://www.nanasei.jp>

特攻70号



### マバラカッタ東飛行場跡の 神風特別攻撃隊慰霊碑

菅原 道熙

平成17年10月24日(29日)に実施した旅行の詳細に関しては、参加された方方の手記に依るとして、今回の慰霊旅行の最大の眼目である、マバラカッタ東飛行場跡に建てられている碑、及びそれに関連する事々に關して、この際報告しておくべきであると判断し、慰霊団長としての旅行報告に替えさせて頂くことにした。

平成17年、終戦60年の節目の年に協会としては、平成13年2月の比島特攻基地慰霊巡行以来の比島訪問を計画した。

現地の人が建てて、現地の人が慰霊祭を行って下さっていることに対しては、日本人として感謝・感激の至りであり、協会としては、平成16年から年額10万円の謝金を、マバラカッタ市に贈ることを決めているが、節目の年でもあり、協会の慰霊団を結成して現地に赴くことにした次第である。

第一次の碑が建てられて既に30余年経過し、平成3年(91)にピナツボ火山の大噴火で、碑が3米にも及ぶ降灰に略々完全に埋没すると云う、予期せざる事態が訪れた。然し乍ら10年を経

て碑が再建され、更に隣接クラーク市と共に、元米空軍クラーク基地内のリリー・ヒルで総合法要を営むに至る迄の経緯を、この際会員各位にお知らせすることが肝要と考えて、慰霊旅行報告の冒頭に、その概要を記すことにした。

#### 一、第一次碑の建立

ダニエル・H・デイゾン氏は、昭和19年10月神風特別攻撃隊が誕生した当時は、14才の少年であった。駐屯していた陸海軍人に可愛がられ、デイゾン少年も規律正しく優しい日本軍人の印象が強く心に刻まれていたであろうことは、別掲デイゾン氏自筆の絵から窺い知ることが出来る。

成人して、猪口力平・中島 正共著「神風特別攻撃隊(英訳本)」を読んで思い出が蘇えり、改めてその壮挙に痛く感激したデイゾン氏は、私財を投じて同志を募って、昭和49年(74)に東飛行場跡地に慰霊碑を建立した(特別攻撃隊339頁参照)

#### 一、201空戦友会

戦時中マバラカッタに展開していた海軍の201航空隊の戦友会は、この事を知って現地に行き確認し、昭和50年の10月25日には、当時存命されていた

大西瀧次郎第1航空艦隊司令長官の未亡人、長官の副官であった門司親徳氏以下70余名が式典に参加し、以後同戦友会が中心になって慰霊祭参加を続けて来た。

#### 一、ピナツボ火山大噴火

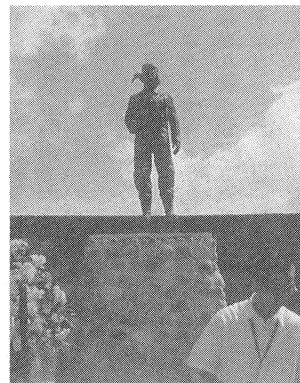
然るに前述した様な不測の事態により、碑が埋没してしまつた。201空戦友会は、碑の再建費用の募金を始めたが、災害の惨状を見て、被災地復旧が最優先であると、集まった資金は災害復旧用にと、マバラカッタ市に寄付したと云う。

#### 一、慰霊碑の再建

平成8(9)年頃と思われるが、自由連合の徳田虎雄代議士(当時)と鹿児島市の名刹最福寺住職池口恵観師が、偶々マバラカッタ市を訪れて、埋もれた碑とその由来を知って深く心を打たれ、住職は観音像の寄贈を申し出て、徳田代議士は毎年徳洲会員を引き連れて来ることを決心されたと云う。そして、2人で世界平和都市宣言をすることを薦められた。

この様な動きの中で、マバラカッタ市は碑を再建することを決めて、平成10年に慰霊祭を再開し、併行して再建工事を始めた。協会が前回訪れた平成

13年2月末には、奥の左に比国旗、右に軍艦旗を刻んだへの字型の壁は出来上り、前に鳥居が建設中であつた。(特改47号別冊24頁参照)



特攻勇士之像



第二次碑(神風神社)

特政66号 別冊



マバラカット東の慰霊祭には昔の事を良く覚えていと75歳の認知症の老人が現われた

2期工事で、壁と鳥居の間の広場に特攻勇士之像を建てると、当時説明されたが、その像は平成16年10月25日に除幕された。

一、観音立像の開眼除幕式

池口恵観師が寄贈された観音立像の開眼除幕は、平成14年10月25日(平和都市宣言5周年記念日)に、元米空軍クラーク基地内のリリー・ヒル(マニラ防衛の日本陸海軍が建武集団として最後迄立籠った所)と称する小高い丘の上で行われた。その時は最上前理事長と小職が参加したが、それ以前にリリー・ヒルでは慰霊祭等の行事が行われることは無かったと云う。徳田代議士は100余名の徳洲会員を引率しておられた。



中央筆者から右へ徳田代議士、岸口兵庫県議、植田但馬人プロジェクト代表、一人おいてヒルベロ・マバラカット観光局長、左へモラレス・マバラカット市長、クラーク市代表者

リリー・ヒルに程近く、関大尉以下の敷島隊が、10月20日に初出撃したマバラカット西飛行場があり、開眼式の前日には壊れ掛った小さな説明板が在ったが、開眼当日の朝には、畳半分位の大きさの物に立替えられていた。

マバラカット市関係者は西飛行場跡を経て東飛行場跡に至り、第2次碑(神風神社)前で慰霊祭が行われた。以後この形で3ヶ所で慰霊祭が行われる様になっている。

リリー・ヒルでは、比・日両国歌が軍楽隊によって演奏されて開式、敷島隊が発進した7時25分に『海行かば』が演奏される。関係者式辞、読経、全員焼香と式(法要)は進行する。

今回は少年少女を混えた市民音楽隊も参加して、式終了前に演奏を始めたが、突然の驟雨で中止になってしまった。

一、西飛行場跡記念碑の建立

マバラカット市当局の手で、東飛行場跡の碑が再建されるのに合わせて、デイゾン氏は、目的は達しなかったが敷島隊の本当の初発進は、此処西飛行場からであったことを示す記念碑の建立を思い立ち、クラーク市の協力を得て特攻勇士之像と同時に完成させた。



平成16年に建てられたマバラカット西飛行場記念碑  
右 大日方邦治氏、左 菱沼俊雄氏



説明板除幕 (左側は英文)

一、神風神社説明板の改築除幕

以前から同じ場所に在った説明板を作り替えて、今回神風神社の慰霊祭に先立って除幕式が行われた。日本語の説明板の除幕は我々団員の手で行った。

一、比日友好親善記念公園建設

モラレス・マバラカット市長は、挨拶の中で、神風神社隣接の一ヘクタールの土地に記念公園建設の計画が進められていると説明され、応分の援助を願いたいとのことであった。計画の詳細は不明であるが、我々日本人としては無関心では済まされない事であろう。

一、これからの展望

老齢化する会員で今後毎年継続してマバラカット・クラークの慰霊祭に参加することは困難であると考えられませんが、協会としては何とか次世代会員を増やして、毎年慰霊団を組んで参加出来る様になりたいと考えております。何卒会員各位の御協力を賜り度くお願い申し上げます。

尚徳田虎雄代議士は体調を崩して引退され、今回は子息の徳田毅代議士が50〜70名位の徳洲会員を引率して来られました。10名足らずでありましたが、青壮年中心の「但馬人グループ」が、

この処毎年参加して「神風グッズ」の販売、マバラカット市観光局に代って、当日参加者へのパンフレット作成等の協力をされていることを申し添えます。



当時少年であったダニエル・H・デイソン氏自筆の絵。(3頁を参照)

*Daniel H. Dizon*  
ダニエル H. デイソン  
スリッピンネ申風言己念協会の会長  
アンヘレス市・スリッピン  
DIZON KAMIKAZE MUSEUM  
#2 Badjao Road, Villa Gloria  
Angeles City 2009 Philippines  
Tel. (045) 522-4176

スリッピン-大日本  
友情  
*Daniel H. Dizon*  
ダニエル H. デイソン  
スリッピンネ申風言己念協会の会長  
アンヘレス市・スリッピン  
DIZON KAMIKAZE MUSEUM  
#2 Badjao Road, Villa Gloria  
Angeles City 2009 Philippines  
Tel. (045) 522-4176

## シベリア

## 鎮魂慰霊の現状と

## 次世代への期待

藤井弥五郎（軍校7期）  
 茨木 治人（軍校7期）

〔編注・本稿は、「同徳台七期生会会報第58号」に掲載されたもので、同会並びに筆者らのご了解を得て、転載させて頂いた。同徳台とは、新京郊外にあった満洲国軍官学校（新京）の所在地をいい、筆者らは同校の第7期生（以下「軍校7期生」と略称）出身である。軍校7期生は、昭和19年12月、当年度の陸軍予科士官学校・陸軍経理学校予科等の受験生の中から選ばれて東京に集合のうえ渡満、新京軍官学校予科に入校した。入校当時、予科生徒は、日系2個連（中隊）満系3個連の編成で、日系は375名であった。〕

8月9日ソ連参戦。当時の軍官学校校長は山田鉄二郎中将、生徒隊長は、溥傑皇弟であった。翌10日、軍事部命令により在校職員生徒をもって諸兵連合の部隊編成が行われた。歩兵7個連（本科満系2、予科満系3、予科日系2）、砲兵隊（本科高射砲2門、野・山砲各2門）、工兵本科1個小隊、輸送隊1隊（本科自動車20両）であつ

た。次いで山田校長は、新京駐防地司令官となり、新京駐屯地の全満軍を指揮し、関東軍の指揮下に入り、その区

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

処を受けるよう命ぜられた。出動準備を整えた軍官学校生徒隊は、学校幹事

伊達寿郎少将指揮の下、13日に学校を出発し、新京駐防地司令部（禁衛隊本部）を始め市内要地、軍事施設、主要

道路等に展開、布陣して防備に当たつた。そして、8月15日の終戦以後は、

在満各部隊と同様、ソ連軍により武装解除。次いで、病氣入院中の者その他若干の残留組を除く大多数は、不当にもソ連に強制抑留されて、シベリア奥地、主として、イルクーツク、チタ、ブカチャーチャ地区で、鉱山採掘、森林伐採、鉄道建設等、極寒、劣悪の環境下での重労働に従事させられ、栄養失調や疫病により80数名の病没者を出し、昭和22、23年頃ようやく帰国することができた。その後、ソ連崩壊により、抑留死者の遺骨収集が可能となるや、早速有志により数年をかけて埋葬地の調査と遺骨収集を続けた結果、平成8年から平成10年の間に82柱の遺骨を収集して千鳥ヶ淵墓苑に納骨することができた。以来毎年欠かすことなく慰霊祭を実施している。しかしなお、シベリアのオルハで死亡した1名、北朝鮮に移送されて死亡した3名、満洲

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

に残留して死亡した9名の遺骨は未帰還のままである。〕

## ◇「シベリア鎮魂慰霊祭」

平成18年11月3日、第10回東京ヤゴダ会及び各戦友会主催の「シベリア鎮魂慰霊祭」が実施された。年初よりご遺族と共に毎月会合を持って計画的に準備を進め、雑誌「正論」11月号にも

慰霊祭実施紹介の記事が掲載されたこともあり、抑留体験者並びにご遺族の新規参加が増えて90余名が参列、盛大に実施することができた。東京新聞の取材も行われた。

抑留体験者は高齢化し、各戦友会では逐次解散して慰霊祭開催が途絶え、抑留体験を語り合う場も機会も失いつつある。また、墓参団が年々減少して訪口墓参が途絶えた結果、埋葬地が整地され、慰霊碑は風雨に曝されて山中に悄然と建っている。最近2年にわたる慰霊碑調査に加わって現地を調査し、その現状を目の当たりにしてきた。

抑留体験最年少の我々が頑張つて「慰霊」を後世に伝える推進力にならなければ、抑留問題は風化し、死没者の「霊」は浮かばれないと強く感じた。今回の「シベリア鎮魂慰霊祭」では、多くの人々に抑留の実態を知ってもらふような展示を行うこととした。（財）

全国強制抑留者協会と相談し、杉村俊一事務局長（軍校7期）とご遺族の長嶺精一郎氏及び茨木治人が千葉で開催中の「抑留展」を見学した結果、奈良県出身の吉田勇氏（故人）が実体験を描いてモスクワで展示会を開催し、現地の人々に衝撃を与えた絵画30点を展示することとした。

絵画に加えて強制労働下、飢餓と極寒に耐えながら、日本人として技術の誇りを失うことなく、各地に建造された劇場、病院、市役所、駅舎等の公共建築物、家屋、マンシヨン群等の現地写真パネルにして展示した。

これらの建造物は、60年を経た現在でも、ロシア人から高い評価を得ている。入居希望者が絶えない。日本人抑留者による建造物については、今国内では、あまり紹介されていない。埋葬地の慰霊祭の写真と共に、これら建造物の写真もパネルにして展示し、その事実を知ることが死没者への「鎮魂・慰霊」につながると考え、今後も続けて行きたい。

冷戦下のソ連時代、独裁国家が支配していた秘密主義と閉鎖性が、国家犯罪である日本人抑留問題を隠蔽すると共に、莫大な死没者の発生も埋葬地の

冷戦下のソ連時代、独裁国家が支配していた秘密主義と閉鎖性が、国家犯罪である日本人抑留問題を隠蔽すると共に、莫大な死没者の発生も埋葬地の

冷戦下のソ連時代、独裁国家が支配していた秘密主義と閉鎖性が、国家犯罪である日本人抑留問題を隠蔽すると共に、莫大な死没者の発生も埋葬地の

冷戦下のソ連時代、独裁国家が支配していた秘密主義と閉鎖性が、国家犯罪である日本人抑留問題を隠蔽すると共に、莫大な死没者の発生も埋葬地の

冷戦下のソ連時代、独裁国家が支配していた秘密主義と閉鎖性が、国家犯罪である日本人抑留問題を隠蔽すると共に、莫大な死没者の発生も埋葬地の

冷戦下のソ連時代、独裁国家が支配していた秘密主義と閉鎖性が、国家犯罪である日本人抑留問題を隠蔽すると共に、莫大な死没者の発生も埋葬地の

冷戦下のソ連時代、独裁国家が支配していた秘密主義と閉鎖性が、国家犯罪である日本人抑留問題を隠蔽すると共に、莫大な死没者の発生も埋葬地の

存在も否定するため、埋葬地の所在を抹消して場所を分からなくした。

ソ連崩壊後になると、当時の実情を知るロシア人は高齢化し、記憶が薄れて埋葬地点の確定が困難になった。一方、日本政府は、抑留問題に強い態度で踏み込もうとせず、国際法違反、人権侵害の国家犯罪を放置して、交渉を持たなかった。政府は全く情報に乏しく、抑留者の記憶に頼る以外に方法がない現実であり、昨年の遺骨収集もハバロフスク地方・チタ州・クラスノヤ

ルスク地方・モンゴル共和国等の一部しか実施できていない。未だに死没者の7割近くが未収骨の現状であり、この如何ともなし難い現実、情けなく腹立たしい。

戦後の自虐史観教育の結果、日本国民の認識は、「シベリア抑留は関東軍の密約」と、公然と報じた一部のマスコミの報道を信じ、進歩的文化人と呼ばれる有識者も同調する有様で、抑留の真実を知る国民は少ない。ご遺族は悲しみに耐えるだけで、抑留問題は日本国民のみならず、世界から忘れ去られようとしている。

### ◆今後の慰霊と遺骨収集

死没当時、小学生だった遺児たちが定年を迎え、情報を基に積極的に父親

の埋葬地を捜し求めている。現在、我々と共に鎮魂慰霊に協力し、新しい若い力となり推進している。

今後、多くの遺児に働き掛け、「シベリア鎮魂慰霊」を遺児たちの若い力で後世に伝えたい。その基礎作りを、抑留最年少の我々が最後の仕事として行動したい。

今までの我々7期生の活動範囲から、チタ州・イルクーツク州については、ほぼ計画に対する基礎作りが出来つつある。特にチタ州については、死没同期生のほとんどの埋葬地に慰霊碑を建設し、1997年からは藤井弥五郎が毎年夏の期間チタ市に滞在して、両州全域の日本軍死没将兵の慰霊碑・埋葬地調査を続け、松岡忠雄君(軍校7期)も調査に参加している。全体像は把握できている。今後の慰霊及び慰霊碑保全管理活動の基盤は整っていると見える。

### ○チタ平和慰霊祈念碑

平成16年、(財)偕行社が厚生労働省の委託を受け、我々七期生会が担当して民間建立慰霊碑調査を実施した。この調査に関連して、故三枝信義義隊長(軍校1期・陸士56期)を中心に多くの方々から浄財の寄進を得て、我々の手で建立した「チタ平和慰霊祈念碑」の保全管理について、ロシア側と打ち

合わせた。建立後5年間、すなわち、1996年〜2001年は東京ヤゴダ会で費用を負担し、碑を建立した現地業者に委託、02年よりチタ市に管理を移管したが、清掃保全に疑問があり、その都度申し入れてきた経緯があった。この調査に際し、平成17年には、チタ州厚生委員会副議長マリーナ女史の同行を得て、チタ市政府社会問題担当副市長グルシエンコ氏を訪問し、ロシア側による管理保全の約束を早期に実現するよう交渉を続けたが、その時は善処するとの返事のみで確たる回答は得られなかった。

昨平成18年、藤井弥五郎が現地へ行き、チタ市の慰霊碑公園と周辺の環境状況を見聞した。西側に隣接する建物が国立法律大学の所有となり、学生・若者によって公園がタバコの吸い殻や飲食物の容器・空き瓶等のゴミでひどく汚され目に余る状況になっているのを確認した。藤井は学校側と協議し、副学長に同行を求めて地域行政官インガジン地区長を訪ね、同地区長の尽力を得て、上級官庁による次の裁定を得ることができた。すなわち、管理主体を大学側に変更し、慰霊碑の建つ公園全体の環境保全を学長に求めることとなった。この結果、シベリア出兵の第

の公園全体に、学校及び地区政府負担で柵を巡らせ、昼間は開放し、夜間は閉鎖施設して環境を保護することに交渉が成立し、慰霊碑の横の繁みに建てている「同徳台七期生」の灯籠も含めて慰霊碑と周辺は未永く清潔と尊厳が保たれることとなった。

ご遺族・戦友会・同徳台七期生会・陸士61期生会をはじめ多くの支援関係者、団体の計画が実現し、チタ平和慰霊祈念碑建立日本委員会(会長・三枝信義氏)が建立した慰霊碑は、10年を経て、ご遺族・東京ヤゴダ会及び支援者の努力でロシア側が維持・管理することとなった。三枝隊長も泉下で喜んでおられることと思う。

### ○その他の慰霊碑

チタ州 州内に建立されている慰霊碑については、毎年チタ市に藤井が滞在して、州政府と日本側との交渉を重ねている。平成17年に実施した政府事業の民間建立慰霊碑調査に際しては、同州厚生委員会副議長マリーナ女史が同行して社会問題担当秘書長ザイチキン氏を訪ね、同氏に州内慰霊碑の所在を示す地図を手渡しして詳細に説明し、保全管理について話し合いを行った。今後も引き続き交渉を続けることになっている。

イルクーツク州 州政府を日本政府

調査団が訪問したのは我々が最初だった。平成16年、厚生労働省の事業として民間建立慰霊碑調査派遣に参加した我々は、儀典課顧問ブラザーゾフ氏の案内で、ヴェレデーエフ州知事官房長と面談し、今回の調査の説明と埋葬地及び慰霊碑管理の問題について話し合った。州政府は慰霊碑調査に前向きな姿勢を示し、官房長自ら実情を把握したいとして、州内の慰霊碑について我々の調査結果を知らせてほしいと要請があった。

日本から、元抑留者が慰霊碑調査に来たことにメディアの関心も高く、テレビ取材を受け、その夜のニュースで放映され、州としての前向きな協力姿勢がうかがわれた。

平成17年の調査は、この要望にも応えるため、2週間連続休みなしに車を駆使するハードスケジュールで、連日埋葬地と慰霊碑調査を実施した。州政府の指示があったのか、ロシア側も休日返上で、最高の協力を得た。

この調査で、東シベリア鉄道(イルクーツク〜タイシエツト間)とバム鉄道(タイシエツトからバイカル湖の北を回って間宮海峡沿岸のガヴァンへ抜ける鉄道新線。バム・バイカル・アムールの略。軍校4期(陸士59期) 航空の一部も抑留就労した。)沿線の埋葬地

に建つ慰霊碑のほぼ全体を把握できた。

調査を完了し、儀典課ブラザーゾフ氏の案内で州政府の知事室長ヴィニャルスキー氏を訪ね、遺骨収集状況、慰霊碑所在一覧図を渡し説明した。秘書室長から、貴重な資料の提出に感謝する言葉が述べられ、不確定地区については歴史学者とも協議を重ねて解明したいとの前向きな話があった。

慰霊問題について、イルクーツク州は関心が高く、建立地の自治体が非常に協力的である。慰霊墓参が毎年実施できるよう、(財)全国強制抑留者協会とも協議・協力して実現させたい。

バム鉄道建設には、1945年10月に抑留者が投入され、最初の冬は穴を掘って野宿し、森林伐採・鉄道敷設工事の労働を強制された。イルクーツク大学クズネツォフ教授の調査記録によれば、その犠牲者は、タイシエツト〜ブラーツク間約300kmの沿線に、病院墓地を含めて35か所の埋葬地があり2652名が埋葬されたとの記述がある。100km〜300km地点は、人跡未踏の原始林を切り開いて進む難工事で、吸血虫ムシカや、体内に入り込んで血を吸う森林ダニとの戦いでもあって、死没者が多かった。

バム鉄道沿線で調査した慰霊碑は、木碑を含めて6基であった。ほとんど

が山中森林の奥深くにあった。

最近10年間、バム鉄道沿線の墓参慰霊を重ねている「タイシエツト友の会」の会員で、我々と同年配の松島昭三氏が調査団に参加同行しておられた。

茨木と松島氏との交流ができたので、今後の慰霊と墓参について意見交換を重ね、合同慰霊祭ができるよう、墓参を継続できるよう、一緒に考えていきたい。

#### ◇ JYMA

平成17年から茨木は、JYMA (Japan Youth Memorial Association) と旧日本青年遺骨収集団)と交流を続けている。大学生有志と卒業した社会人のボランティア団体で、沖縄、ガダルカナル、硫黄島、シベリアなどの遺骨収集に参加している。平成7年には小池禮三、杉村俊一、谷口久昭、松岡忠雄の4君(いずれも軍校7期生)によるペトロフスク遺骨収集に10名の学生が加わって活動した。

平成17年、七期生会鬼怒川総会に並行して、千葉県柏市で開催された「遺烈・戦没者遺骨収集展」(常磐61期生会・JYMA共催)のシベリア関係出展に、茨木が全面協力したのが交流のきっかけである。

彼らはシベリア遺骨収集に参加し、

収集作業を体験し、抑留の悲惨さを目の当たりにし、同行した元抑留者と話を交わして、初めて抑留者の実態を知ると。しかし、歴史としては教えられず、ほとんどメディアも取り上げないため、抑留の経緯や詳細は分かっていない。出発前の僅かな時間に、先輩学生や社会人から遺骨収集の速成教育を受けている現状である。

今年平成19年は、定期的会合・交流の場を作り、慰霊祭や抑留展示の応援を通じて、学生と抑留の話をする機会を設けたい。

JYMAには、平成17年と18年のそれぞれ11月の千鳥ヶ淵墓苑でのシベリア鎮魂慰霊祭に、18年には、春の七期生会慰霊祭に応援参加して頂いた。毎回応援して頂いている女子学生の村山かおりさん(国士館大学3年生)が、本年度のJYMA学生代表に就任した。昨年末、本年度の慰霊計画について話し合い、打合せを行った。

JYMAの組織をもって、更にシベリア慰霊に向けて活動してもらいたいと要望した。慰霊祭・抑留展に学生が協力するため、気軽に打合せができるような場が欲しいとの要望も出た。年が明けて、学生執行部が決定したら、平成19年度の具体的な活動方針を話し合うことにした。

シベリア鎮魂慰霊の、次世代への推  
進に、JYMAの組織が死没者ご遺族  
と共に行動できるよう、模索してい  
きたい。

### ◇シベリアの死は覚悟の戦死ではない

毎年、武道館では、8月15日に政府  
主催の戦没者慰霊祭が実施され、千鳥  
ヶ淵戦没者墓苑では、春秋の慰霊祭が  
行われている。しかし、私が常に繰り  
返し言っているのは「シベリア死没者  
は、民族を護るため、御国のための盾  
となって、自ら死を覚悟して戦死した  
戦没者ではない。戦争が終結し、故国

へ帰還する日を待つ将兵を、ダモイと  
欺いてシベリアに送り込まれ、囚人以  
下の扱いで強制労働を強いられて死没  
した憤死者である。」ということであ  
る。だからこそ、慰霊を続けなければ  
ならないし、ご遺族の悔しき、悲しみ  
は計り知れないものがある。この事実  
を終生忘れずに、後世に伝えていか  
なければならぬ。この真実をもっと  
多くの日本人が知って、「慰霊」を後  
世に伝えて欲しいのである。

遺骨収集の写真パネルをご覧になって  
涙しておられる方が多く、展示への関  
心が高いことが確認された。  
慰霊祭10周年を迎える本年は、代表  
幹事はじめ幹事会の意向を踏まえ、墓  
苑側のご理解も得て、花見かたがた墓  
苑に参拝される方々が「シベリア抑留  
の真実」を知ることにより、更に慰霊  
の心を深く永く後世に伝えて頂けるよ  
う、更なる感動的な展示を行い、死没  
者への鎮魂慰霊としたい。

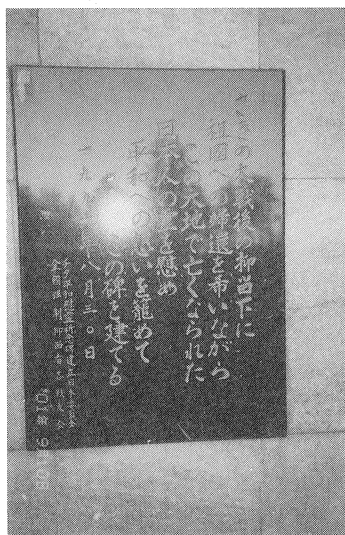


(チタ州)

### 鎮魂・チタ平和祈念慰霊碑

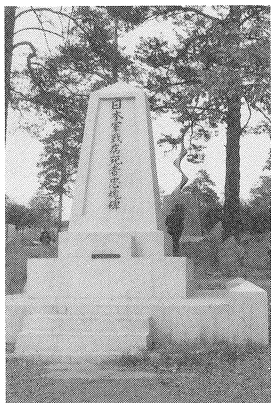
チタ市の全面協力を得て  
募金により建立された碑

(建立者) チタ平和基金日本委員会  
会長・三枝信義  
東京ヤゴダ会  
(場所) チタ市第2駅北北東約2、5 km  
旧墓地



チタ平和祈念慰霊碑の碑文

シベリア出兵・日本軍戦病死者  
忠魂碑 (大正9年7月20日建立)・  
奥の樹間にチタ平和祈念慰霊碑  
が見える。



# 協議会参加団体の紹介

## ④ 興亜観音を守る会

### 【団体の沿革・目的】

「興亜観音を守る会」は、松井石根大將の崇高な「怨親平等」という日中両軍戦没者慰霊の志を継ぐ有志によって平成6年(1994年)11月18日に設立された(田中正明会長)。その会則第2条には、「この会は、静岡県熱海市伊豆山一三六宗教法人礼拝山興亜観音を守り、もって我が国の歴史、伝統、文化などを正しく認識すると共に世界平和に貢献することを目的とする」とある。

その「興亜観音」とは、松井石根大

將の発願により建立された露立の聖観音菩薩像であり、昭和15年2月24日、願主松井大將を始め、朝野の名士、戦没者遺族ら多数参列のもと、芝増上寺貫主大島徹水僧正を導師として開眼法要が営まれたものである。

松井大將は、昭和12年7月、支那事変(日中戦争)の勃発に際し、同年8月15日、上海派遣軍司令官を命ぜられて出征、呉淞(ウーソン)上陸以来南京(ナンキン)攻略まで軍の総指揮に当たった。この間の激戦で、日中両軍共多数の将兵の血潮が流された。松井大將は、凱旋帰国後、彼我戦没者の御霊を弔い、供養するため、興亜観音の建立を発願されたのである。

この露立の聖観音像は、同戦争の激

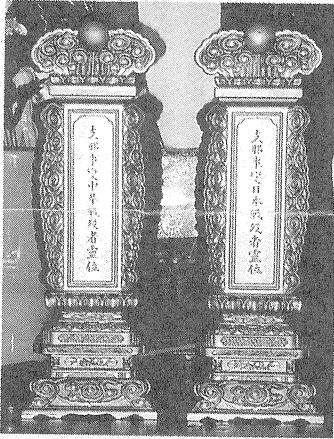
戦場となった大場鎮や南京地域の戦場の土を取り寄せ、愛知県常滑の仏像陶工師・柴山清風氏にはかり、彫塑家・帝展審査員・小倉右一郎氏の協力を得て制作されたもので、高さ3・3メートル(一丈)あり、赤銅色の合掌形聖観音立像は、大慈大悲の温容を湛え、中国大陸南京の方向に目を向けて立っておられる。

興亜観音の本堂(観音堂)は、名古屋市中村区の魚沢弘吉氏が保存していた熱田神宮神殿造営の余材を寄進し、自ら堂宇の設計建立を担当されたもので、本堂の天井に描かれた墨絵の龍は、堂本印象画伯の力作とのこと。その内陣には、興亜観音像と同じ姿の、高さ60・6センチ(二尺)の観世音菩薩像

が安置されているが、これは尾張瀬戸市の陶工師(後の人間国宝)加藤春二氏の作になるものである。その正面下の宝篋には、松井大將の部下戦死者2万3104柱の霊名簿が納められており、また、右の「支那事変日本戦没者霊位」と記された位牌と、左の「支那事変中華戦没者霊位」と記された位牌が対等に祀られている。更に、現在では、大東亜戦争全戦没者の御霊を合わせ弔い、供養しており、この御霊には、戦争裁判による殉国刑死者1068名も含まれている。

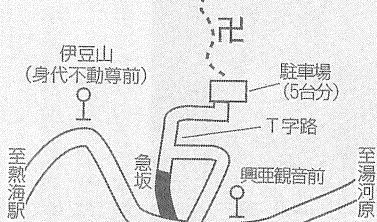
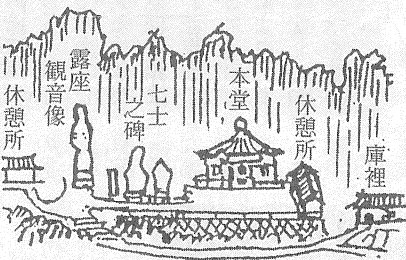
また、「興亜観音像」のすぐ近くには、「七士之碑」が建てられている。

この碑は、東京裁判により、いわゆるA級戦犯として、昭和23年12月23日に



本堂内陣に対等に祀られている日本(左)・中国両戦没者の位牌

7413-0002 熱海市伊豆山1136  
☎0557(80)0738



【交通】熱海駅前から  
■伊豆山行(20~30分毎)  
バスのりば⑨(興亜観音寄り口まで約200米)  
■タクシー約1,200円(山道の中腰まで登る)



処刑された松井石根大将、廣田弘毅元首相、土肥原賢二大将、板垣征四郎大将、東條英機大将、木村兵太郎大将、武藤章中将ら七士の遺体が横浜市保土ヶ谷区の久保山火葬場で荼毘に付された際、東京裁判の弁護人を担当した、三文字正平氏らの命がけの尽力により確保された遺骨を密かに興亜観音に運んで埋葬され、その墓所に、昭和34年秋、当時の興亜観音奉讃会会長高木陸郎氏らの尽力により建立されたもので、碑銘は吉田茂元総理の筆になるものであり、裏面には七士が処刑直前、手銃をしたまま筆を執り奉書に認めた署名が刻まれている。昭和35年春の除幕式には、吉田元総理も坂道の参道を駕籠に乗って参列したという。その「七士之碑」も昭和46年12月、過激派学生によって「興亜観音像」と共に導火線を仕掛けて爆破が計られ、碑は大きく三つに割れたが、観音像は無事であった。その後、碑は、翌年8月、有志の献身的な努力により、ほぼ修復されて今日に至っている。興亜観音は、建立以来、伊丹忍礼、妙真ご夫妻が堂守として尽くしてこられ、その亡き後は、伊丹三姉妹の妙徳尼、妙珠尼、妙浄尼らが清貧に甘んじながら交代で献身的に支え続けてこられた。また、数多くの崇敬者や関係者のご支援によって維持

されてきたが、建立以来半世紀以上も経って、建物や参道の老朽化が進み、聖職者の生活環境も悪化し、その維持存続が危ぶまれるほどになった。その窮状を見かねた有志が相諮り、平成6年11月「興亜観音を守る会」を設立したものである。

この会は、特定の宗教や宗派にこだわらず、興亜観音を守り、我が国の歴史、伝統、文化などを正しく認識し、世界平和に貢献することを目的としており、このため、興亜観音の諸施設の維持管理、宗教行事への援助、聖職者の生計費援助などの諸事業のための募金、寄進を行ってきた。

なお、「興亜観音を守る会」とは別に、「宗教法人礼拝山興亜観音」規則第34条第2項の規定によって、「興亜観音奉讃会」が設立されており、同会は、昭和15年2月、松井大将を総裁にして、熱海市長樋口修次氏を会長として創立され、戦後も関係者の寄進で維持されてきた。同会は、事務所を静岡県熱海市に置き、興亜観音を崇敬奉養し、護持することを目的に、興亜観音諸施設の維持管理への協力と寄進、広報活動などの諸事業を行っている。

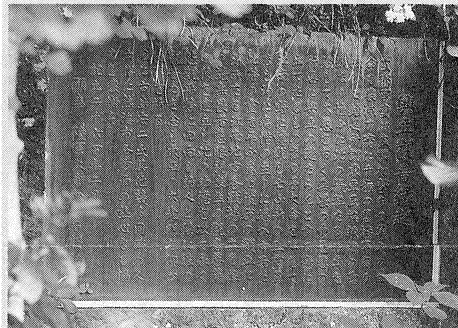
【団体の主要事業】

(興亜観音を守る会会則第3条)



観音像のすぐ近くに右から建つ「七士之碑」(東京裁判で殉国刑死された松井大将ら七士、吉田茂・元総理書)、「大東亜戦殉国刑死1068遺位供養碑」、「大東亜戦争戦没将士英霊管礎」

松井大将自筆の建立縁起(興亜観音像の右側、山の斜面の石に銅版に刻まれてはめ込まれています)



建立縁起

支那事変は友隣相撃ちて莫大の生命を喪滅す。実に千歳の悲惨事なり。然りと雖も、是所謂東亜民族救済の聖戦たり。惟ふに此の犠牲たるや身を殺して大慈を布く無畏の男、慈悲の行、真に興亜の礎たらんとする意に出でたるものなり。予大命を揮して江南の野に転戦し、亡ぶ所の生靈算なし。洵に痛惜の至りに堪へず。茲に此等の靈を用ふ為に、彼我の戦血に染みたる江南地方各戰場の土を獲り、施無畏者慈眼視衆生の観音菩薩の像を建立し、此の功德を以てて永く怨讎平等に回向し、諸人と俱に彼の観音力を念じ、東亜の大光明を仰がん事を祈る。因に古島安二氏其他幾多同感の人士併に熱海市各方面の熱心な協力を感謝す。

紀元二千六百年二月

願主 陸軍大将 松井石根

(注) 紀元二千六百年は昭和十五年

- 1 興亜観音像・堂宇・墓碑その他諸施設の維持管理、宗教行事に対する援助、および聖職者の生計に対する援助などのための寄進
- 2 広報活動(注)年2回会報を発行する)
- 3 その他必要な事業

(注・宗教法人「礼拝山興亜観音」では、毎年5月18日に例祭を挙行してお

## 奉祝「建国記念の日」

「国民の祝日に関する法律」(昭和二十三年七月二〇日法律第一七八号)第二条「祝日の内容」第三条には、建国記念の日は政令で定める日(二月十一日)とあり、この日は「建国をしのび、国を愛する心を養う」と定められている。同号は、昭和四一年六月二五日法律第八六号により改正されたものであり、その附則第2項で、改正後の第二条に規定する建国記念の日となる日を定める政令は、この法律の公布の日から起算して六月以内に制定するものとする」とされ、それは、昭和四一年政令第三七六号により「建国記念の日は、二月十一日とする」と定められたのである。また、それに先立ち、改正法律附則第三項では、「内閣総理大臣は、改正後の第二条に規定す立案をしよう

り、興亜観音を守る会はこれに全面的に協賛している。)

### 【組織の概要】

- 1 (会員及び会費)会則第4条、第14条
  - 正会員 年額一口三千元
  - 準会員 年額一口二千元
  - 維持会員 年額一口一万元
  - 法人会員 年額一口一万元

### 【事務局】

- 終身会員 五万円以上
- 2 (役員)会則第5条)
  - 会長1名、副会長若干名、理事70名以内(運営委員若干名を含む)、監事3名以内
 なお、名誉会長及び顧問を置くことができる。

〒一七六―〇〇〇―一  
 東京都練馬区練馬一―三三―九  
 電話 〇三―三九九二―二六九〇  
 FAX 〇三―三九九二―二六九六  
 郵便振込口座名義  
 「興亜観音を守る会事務局」  
 口座番号  
 「0018003614598」

とするときは、建国記念日審議会に諮問し、その答申を尊重しなければならぬ」とあり、同審議会の答申に基づき、民主的な手続を経て定められたものである。当時その制定に当たっては、社会党や共産党などから日本国憲法が施行された五月三日こそ建国記念日にふさわしいなどと主張されたが、当時の世論調査でも紀元節の復活を望む国民は、実に九割にのぼったという。その紀元節に関し、我が国最古の正史である「日本書紀」には、初代神武天皇が橿原宮で即位された日を「辛酉年の春正月の庚辰の朔に、天皇、橿原宮に即位す。是歳を天皇の元年とす」と記している。これを明治時代になって太陽暦に換算して算出されたのが、二月十一日という日付けである。そもそも国の成り立ちにおいて、正確にその日の特定できるのは、アメリカ合衆国のように歴史の浅い国に限られるの

であって、日本のように、歴史が古く、しかも自ずからにして国家が形成されたような国で、その日を科学的に特定することは不可能に近い。我が国においては、最古の正史である日本書紀の記述によって建国の日を定め、苦難と栄光に満ちた建国の偉業を偲び、肇国以来今日まで、連綿と百二十五代、絶えることなく天皇を中心に来てきた、世界に比類のない我が国体と我が国の歴史、文化、伝統に思いをいたし、これが継承、発展を祈念することに、建国記念日の意義があると考えるのである。ところが、こともあろうに、この「神武建国」「天皇陛下万歳」に異議を唱える政府後援の国民式典と「神武建国」「天皇陛下万歳」を守ろうとする民間主催の「奉祝中央式典」とが長年別個に開催されてきた。そして、政府後援の国民式典の方は、昨年から取り止めとなった。民間団体「日本の建国

を祝う会」(会長・小田村四郎元拓殖大学総長)主催による「建国記念日奉祝中央式典」は、今年も二月十一日の午後、明治神宮会館において、超満員の千数百名が参列して盛大に開催され、若者や女性の参加も多く熱気に溢れていた。この日午前中は、原宿表参道周辺において、國學院大学・国士館大学・駒澤大学・専修大学・大東文化大学・拓殖大学・千葉商科大学・帝京大学・明治学院大学・立正大学の各吹奏楽部による奉祝パレードが行われたが、そのマーチングコンテストの結果、駒澤大学チームが最優秀賞に選ばれ、奉祝行事の第二部で表彰式とその見事な演奏が披露された。次いで、島根県浜田市の伝統芸能「岩見神楽」の「岩戸」(おろち)が上演され、神々しくも勇壮なその演舞に一同魅了された。  
 (飯田 正能記)

### 事務局からの報告

#### ○参加団体連絡調整会議の開催

当協議会では、首都圏参加団体の連絡調整会議を年2回開催することになっているが、本年度後期の連絡調整会議を12月6日、開催した。

#### 第2回参加団体連絡調整会議の概要

(開催月日)

平成18年12月6日

(開催場所)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑会議室

(会議出席団体)

海原会

英霊にこたえる会

興亜観音を守る会

震洋会

全国甲飛会

全ビルマ会

太平洋戦争戦没者慰霊協会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会

予科練雄飛会

JYMA

(主要協議事項)

1 平成19年度事業計画

平成19年度に協議会が置かれる環境条件について事務局から説明し、事業計画の骨子について討議

した。

2 参加団体幹事会設置の協議

平成18年度事業計画に基づき参加団体幹事会を設置することを協議し、参加団体幹事会は次の団体を担当することとなった。

海原会

英霊にこたえる会

太平洋戦争戦没者慰霊協会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会

なお、この幹事会は早速平成19年1月から活動を開始することとなった。

#### ○参加団体幹事会の開催

12月6日の参加団体連絡調整会議で選出された参加団体幹事会の第1回会合は1月19日(金)開催された。この幹事会には幹事会団体5団体から担当者が出席し、真剣な意見交換が行われた。

(主要審議事項)

1 平成19年度事業計画(案)の作成

事務局が用意した事業計画案を基礎に審議した。なお、審議時間の関係もあり、一部について持ち帰り、後日意見提出することとなった。

2 今後の幹事会開催予定

今後の幹事会の開催は、奇数月15日を基準とすることを申し合わせた。

### 大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭 開催のお知らせ

当協議会は参加諸団体と共に、大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭を、本年7月7日(土)12時から靖國神社に於いて催行の予定であります。

この慰霊祭のご案内状は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、埼玉県在住の賛助会員の皆様へ差し上げる予定に致しております。この地域以外在住の賛助会員の方にはご希望の方にご案内状を差し上げますので、東京、神奈川、千葉、埼玉以外にお住まいの方で参列ご希望の方は当協議会事務局宛にハガキ又はFAXで御連絡をお願い致します。

事務局宛先は

〒一〇五-〇〇〇一

港区虎ノ門三-一六-八第六森ビル5階

大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会

FAX 〇三-五四〇五-一八三九

(参考)

参加費用

玉申料 二〇〇〇円

直会参加費用(参加者のみ)

五〇〇〇円

#### 当協議会会員御入会のご案内

当協議会におきましては、慰霊事業の永続をはかるためなるべく多くの方々の会員御加入をお待ちしております。

皆様方の御協力を御願ひ致します。

会員の区分と年会費は次の通りであります。

一 賛助会員

(本会の趣旨に賛同する個人)

年会費 三〇〇〇円

二 賛助特別会員

(特別ご芳志の賛助会員)

年会費 五〇〇〇円

三 正会員

(本会趣旨に賛同する慰霊目的の法人)

年会費 一〇〇〇〇円

四 特別会員

(本会の趣旨に賛同する法人・団体)

年会費 五〇〇〇〇円

【新入会員及び寄付者】  
(11月27日～2月22日)

【賛助会員】(あいいうえお順)

柴末五郎	佐々木兵五郎	酒井義明	小林洋平	小泉文昭	栗原邦昭	久邇家斉	木村しめ	北沢勝三	川田昂寛	加藤初男	加藤幸一郎	梶原博亮	柿沼英嗣	越智金治郎	小川圭雄	小川康孝	岡村信夫	大脇文喜	榎田敏之	宇田利夫	上羽之巖	岩岸利夫	伊藤浩之	一瀬幸男	石川幸憲	安西昭二	穂田昭二
------	--------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

北尾万里	杉田繁春	佐藤彰男	佐藤昌昭	紺野岩三	後藤龍夫	郡司文正	国田幸義	沓掛村多	木村義一	喜多義一	上田史明	加藤史明	片岡義三	影山正男	甲斐部五郎	冲原昭二	小川研二	緒方幹雄	大津効司	中尾秀三	中尾秀三	徳光秀三	出光秀三	鶴井安夫	筒井正士	谷川澄江	田中はづ	田崎正信	竹内郷太郎	田上利次	鈴木良文	杉山次文
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------

年月日	時間	慰靈行事名	場所
19年7月7日	12時～15時	大東亜戦争全戦没者慰靈団体協議会	靖國神社
19年6月10日	12時	(財)海原会	靖國神社
19年11月11日	10時30分	第40回予科練戦没者慰靈祭	陸自武器学校内・雄翔園二人像前
19年8月15日	9時～9時50分	英霊にこたえる会	靖國神社
19年8月15日	10時30分	戦没者追悼中央国民集会	靖國神社
19年12月18日	13時～15時	興亜観音を守る会	興亜観音本堂
19年5月13日	14時～15時	震洋会・特攻殉国の碑保存会	興亜観音本堂
19年8月15日	20時～21時	第41回慰靈祭	長崎県川棚町・特攻殉国の碑前
19年7月15日	11時	みたま祭り	靖國神社
19年11月3日	11時	全ビルマ会	靖國神社
19年11月3日	11時	シベリア平和慰靈公苑	靖國神社
19年9月1日	13時	(財)太平洋戦争戦没者慰靈協会	靖國神社
19年5月18日	12時30分	(財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会	千鳥ヶ淵戦没者墓苑
19年10月14日	13時45分	秋季慰靈祭	千鳥ヶ淵戦没者墓苑
19年3月30日	12時	第28回特攻隊戦没者合同慰靈祭	靖國神社
19年9月23日	14時	特攻平和観音年次法要	世田谷山観音寺
19年11月17日	11時	永代神楽祭	靖國神社
19年11月8日	14時	善福寺法要	杉並区・善福寺

協議会参加各団体の本年度慰靈行事予定(情報入手分のみ)